

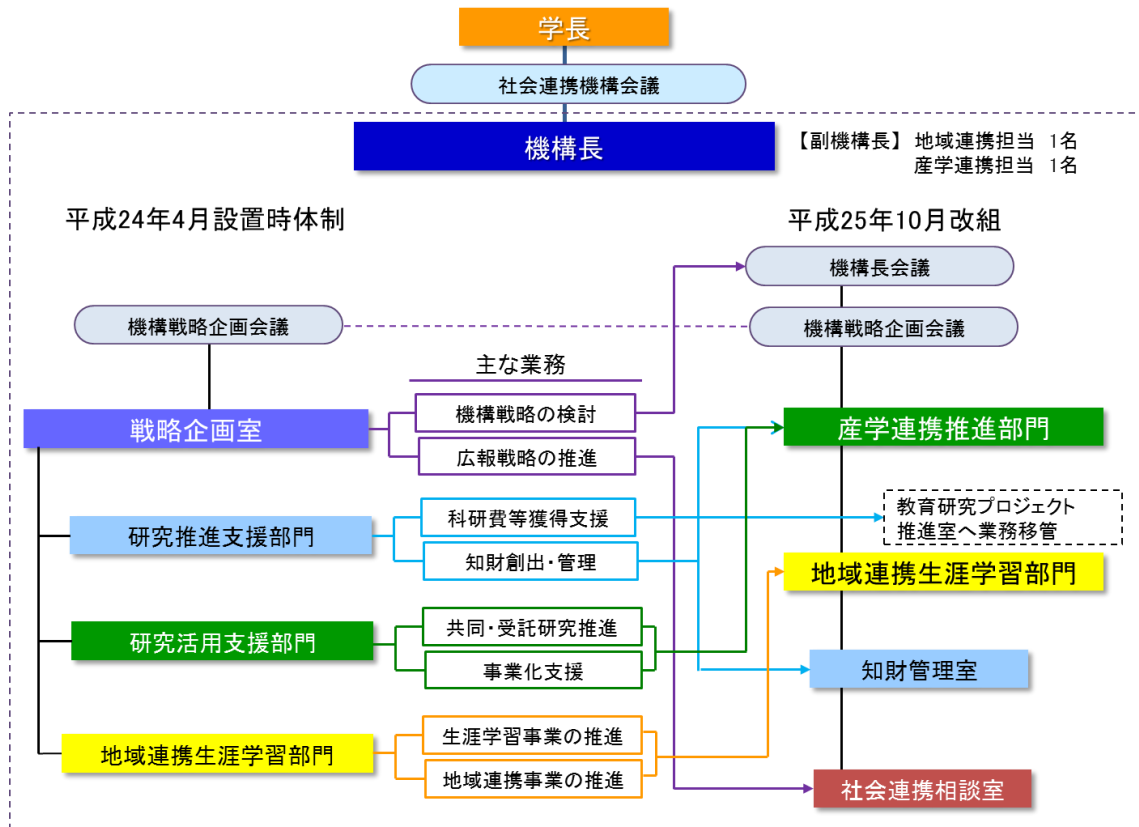
## イノベーション社会連携推進機構について

副学長（社会・産学連携担当）

イノベーション社会連携推進機構 機構長

木村 雅和

平成24年4月にイノベーション共同研究センター、知的財産本部、地域連携協働センターそして生涯学習センターが統合され、静岡大学の社会貢献組織（社会連携、産学連携）として一本化されたイノベーション社会連携推進機構が誕生し、2年間活動して参りました。この間に静岡大学においては、大きな動きがありました。それは、大学の研究戦略の強化と外部資金獲得に向けた戦略的活動の推進のために、研究担当理事の下に「教育研究プロジェクト推進室」が平成25年4月に設置されたことです。このことにより本機構では、研究支援に関する部分を新設の教育研究プロジェクト推進室にシフトするとともに、部門の改組を行いました。



### 改組によるワンストップサービス体制の強化

平成25年10月から改組後の機構の体制は産学連携推進部門と地域連携生涯学習部門の2部門と知財管理室と社会連携相談室の2室から成ります。これにより皆様からご相談を受けた案件につきましては、それぞれの部門で分かりやすく対応させていただくことが可能になりました。また、まずご相談いただく場合には、社会連携相談室にお話しいただければ、ワンストップサービスで対応させていただきます。

さて、イノベーション社会連携推進機構がお手伝いさせていただいた、浜松キャンパスの最近のトピ

ックを一つご紹介します。高柳先生から始まる浜松の光技術のイノベーションの歴史に新たな1ページが刻まれることになりました。本学が浜松ホトニクス㈱、浜松医科大学、光産業創成大学院大学とともに申請した“はままつ光研究拠点”の提案が文部科学省 地域資源等を活用した産学連携による国際科学イノベーション拠点整備事業に採択され（平成24年度補正予算で全国15拠点の一つ）、浜松キャンパスの電子工学研究所の横に“光創起イノベーション研究拠点”棟が整備されることになりました（平成26年度中に竣工予定）。浜松では、これまでに光研究拠点の構想が検討されてきましたが、平成24年11月に浜松ホトニクス㈱の晝馬社長と本学の伊東学長の面談を契機に光拠点構想が一気に加速し、国際科学イノベーション拠点事業への申請・採択へと繋がりました。そして4機関は単に個々の研究開発の推進を目標にするのではなく、“光の先端都市HAMAMATSU”を創造するために密接に連携していくことを確認し、平成25年6月11日に3大学の学長と晝馬社長が浜松光宣言2013に調印しました。さらに光創起イノベーション研究拠点のチームは文部科学省の推進する平成25年度の“革新的イノベーション創出プログラムCOI STREAM”に申請し、COI-Sとして採択されました。COI STREAM



光創起イノベーション研究拠点の設置

では”豊かな生活環境の構築”のビジョンの達成に向けて9年間を目途に研究開発を進めます。新設される研究拠点においては、COI STREAMの研究も含め、様々な場所で多様な生活を営むための持続的社會システムの実現を目指し、光の波長・位相・強度について“時空を超えて自由に操る革新的研究”を課題としています。4機関を中心に一つ屋根の下で光技術のパラダイムシフトを誘起し、時空を超えて人同士が互いにかかわる生活、何時までも若く安心して有意義な生活を送る事ができる社會の実現を目的に研究開発を展開していきます。

今後の光創起イノベーション研究拠点の展開にご期待下さい。